奈良市新斎苑基本計画 (案) 概要

Ⅰ. 新斎苑計画の背景と計画地の概要

Ⅰ-1. 新斎苑計画の背景

現在の奈良市火葬場(東山霊苑火葬場)は、 大正5年に開設し、その後、昭和43年に老朽 化対策改修、昭和48年に燃料を白灯油への切 替え改修、昭和49年に強制通風装置設置およ び再燃焼炉の改修工事、昭和57年に完全無煙 無臭の独立型火葬炉への改修工事等、数度の改 修を経て、現在に至っています。

現在の施設概要は右表のとおりとなっています。

市民ニーズや火葬件数の増加などの社会状況の変化や近年の技術革新にともなう環境面への負荷軽減等を考慮すると、旧タイプの施設の改修だけでは限界があり、時代の状況に対応するため、人生終焉の儀式の場にふさわしい、安らぎのある、また環境や景観に配慮した新斎苑を整備することとしました。

東山霊苑火葬場の概要

所在地	奈良市白毫寺町973番地	
開設年月日	大正5年	
構造・規模	鉄筋コンクリート造平屋建 延床面積 578.93m ²	
施設概要	火葬炉8基(内 大型炉は1基)、 収骨室、遺体保管室(2体) 斎場(有料)、職員用事務室など	
業務内容	火葬業務、維持管理業務	
業務時間	午前9時~午後5時	
休業日	1月1日~1月3日	

I-2. 新斎苑の計画地の概要

新斎苑計画地は、現在の火葬場から東南約 1.2 kmの横井町地内の山林に位置し、市街地に比較的近く、約 1.2~1.7 kmのところに、県立高円高校や奈良教育大学などが立地していますが、計画地から 250m 以内に住宅はありません。

計画地の区域、地区の指定状況は下表のとおりとなっています。

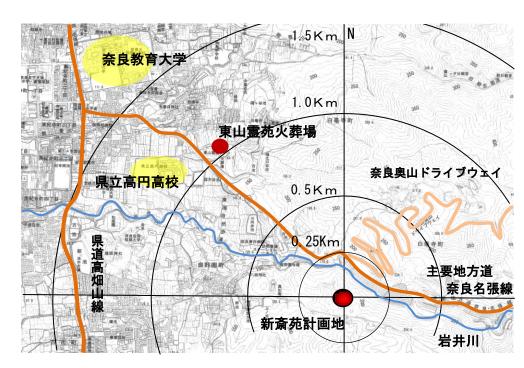
北側には主要地方道奈良名張線と岩井川が並行して位置し、岩井川と南側の市道東部第 285 号線との間に挟まれた敷地となっています。また、南側市道が丘陵の尾根を形成して高くなっており、北側に面する岩井川に向かって低くなる北向きの斜面となっています。

標高は、岩井川に接するあたりで $160\sim170\,\mathrm{m}$ 、南側の市道に近いところで、 $210\sim220\,\mathrm{m}$ となっています。

新斎	「苑計画地の区域地区(の指定状況

区域等	根拠法令	区域名称
都市計画区域	都市計画法	市街化調整区域
風致地区	都市計画法	第二種風致地区 (春日山風致地区)
国定公園区域	自然公園法	大和青垣国定公園 第2種特別地域

位置図



Ⅱ.新斎苑計画の概要

Ⅱ-1. 新斎苑整備の基本方針

本市にとって、近年の高齢化という社会的背景に加え、地球規模での環境面への配慮が求められており、最新の設備による新斎苑建設は緊急かつ重要な課題となっています。環境面への負荷の少ない最新の設備による新斎苑とすることと共に、国定公園内及び風致地区内に位置することを考慮し、当地の樹林の活用など、自然景観への最大限の配慮を行いつつ、量的な需要にこたえる施設とします。

このような背景を踏まえ、新斎苑整備の基本方針を以下のように設定しました。

『奈良の都の葬送の場としてふさわしい自然に包まれた新斎苑を創造』

春日山や奈良の街並みを眺望することができる森の中に、周辺環境と一体化した美術館のような建築物のイメージの新斎苑とします。亡くなられた方の尊厳を大切にした人生の終焉にふさわしい場にするとともに、ご遺族が心穏やかにお送りできる癒しの場となる施設を目指します。

●奈良の都の葬送空間を創造する新斎苑

奈良盆地の外縁を形成する丘に現代の奈良にふさわしい葬送の空間を作ります。春日山や市街への眺望や木々の緑を活かし、奈良らしいデザインを取り入れた空間を創ります。

●遺族や会葬者の心情に配慮した人にやさしい新斎苑

それぞれのスタイルで故人を偲び見送る時間を過ごすことのできる利用しやすい新斎苑とします。

●自然と調和した新斎苑

現状の自然を活用し、自然の中にとけ込み、自然を育む新斎苑とします。

●環境へ配慮した新斎苑

最新設備による騒音、排出ガスなど環境への負荷を低減した新斎苑とします。

●長く安定した運営ができる合理的な新斎苑

長期にわたり利用できる施設として耐久性があり、安全に継続的な運営が可能な新斎苑とします。

Ⅱ-2. インフラ整備の概要

新斎苑計画地へは、主要地方道奈良名張線奈良奥山ドライブウェイへの交差点より岩井川を渡河し、市道東部第285号線まで道路を建設する計画としています。

橋長、橋種などは、概略検討をもとに、測量、地質調査 結果等を踏まえ、今後詳細設計を行う予定です。整備する インフラの概要は以下のとおりとなっています。

インフラ整備の概要

道路	第 3 種第 4 級 設計速度 本線 30km 支線 20km		
橋梁	鋼 2 径間連続板桁橋 約 94m		



Ⅱ-3. 建築計画の概要

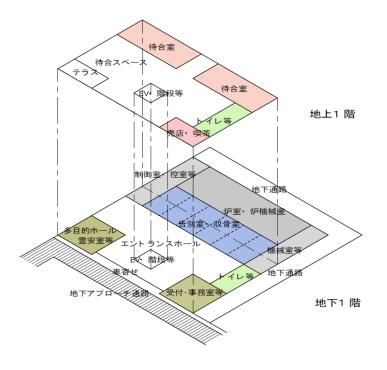
本施設は、国定公園内及び風致地区の規制により高さが 10m以下に、水平投影面積が 2,000 m²以下とされています。

火葬炉の設備については、バグフィルターなどの設備が、高さ約10m程度は必要とします。また、風致地区の規制により、勾配屋根(3/10以上)とすることが必要ですので、大きな平面で構成される本施設は、屋根の高さについても5m程度が必要となります。

以下に、平均地盤面を地上1階レベルとし、地下1階、地上1階の2層を建築した場合のゾーニング例を示します。

ゾーニング例

	鉄筋コンクリート 地下1階・地上1階	
構造規模	延床面積 約 5,200 ㎡	
	(地階 約 3,500 ㎡ 地上1階 約 1,700 ㎡)	
火葬炉設備	13炉(汚物炉1炉、動物炉1炉)	
	燃料:灯油	
告別室兼収骨室	6室	
4.人中	6 室程度、待合スペース(ホール)	
待合室	授乳室、キッズルームなど	
7.0.114	喫茶・売店、	
その他	多目的ホール(小)1室、霊安室	
駐車場	約80台	



イメージパース







※新斎苑をイメージしたもので変更になる場合があります。